



『関西企業ヒストリア』

～その強さの秘密・転換点を探る～

創業から70年以上の歴史を重ねる会員企業を取りあげ、時代の荒波を乗り越えて、長い期間にわたって生き残り成長してきた強さの秘密、その歴史の転換点を探ります。

第29回 創業 1890年(明治27年)

越井木材工業 株式会社

木材業を創業 電柱素材の納入開始

1890年▶ 古くから木材商をしていた越井家の歴史は江戸時代にまでさかのぼります。興正寺別院が、現在の富田林寺内町を宗教自治都市富田林として開発・整備する際、協力した「八人衆」の一人が越井家でした。

1890年、日本初の電信電話開設に際し、古くからの家業である木材商として通信省に電柱素材を納入することに成功しました。これを契機に、通信省の他、関西電力、電信電話等に電柱木材を、満州鉄道に枕木木材を納入するようになりました。創業者の越井醇三は経営の手腕を発揮し、「電柱王」と呼ばれるほどでした。



越井醇三氏



電柱・枕木全盛時代

1900年、台湾総督府民政長官後藤新平伯の推挙によりブッチェリー法による木材防腐を日本で初めて行うことになり、富田林に硫酸銅防腐工場を建設。これはわが国で初の

硫酸銅注入工場でした。1917年には創業者・越井醇三が合名会社越井営業所を地元富田林に設立。家業の一つである木材業が近代的なスタートを切りました。



ここが
転換点

存続の危機を迎え
電柱・枕木から住宅へ

1948年▶ 第二次世界大戦により壊滅的な打撃を受けた越井を粉骨砕身し蘇らせた立役者が、二代目である越井楠二でした。戦災に遭った津守工場の復元に取り組み、1948年に合名会社越井営業所を継承し、越井電柱木材株式会社を設立しました。これが後の越井木材工業株式会社です。

1958年、順調かに思えた事業に陰りが見え始めました。戦後の人口増加に伴う住宅供給に木材供給が追い付かず、電柱がコンクリートに移行し始めました。売り上げの8割が電柱素材だったこの時、越井電柱木材は存続の危機に立たされることとなりました。



当時の電柱納入の様子

1963年、越井健が四代目社長に就任しました。コンクリート電柱の会社ではなく、住宅用部材としての木材を扱う会社にするため、翌1964年にはスウェーデン・ポリデン社より木材防腐防虫剤「ポリデン K33」の輸入契約を締結し、日本総販売権を取得しました。以後、住宅メーカー向けに防腐処理を施した土台の販売を開始し、防腐処理木材を主力製品として発展。1973年には防腐薬剤部門を分離し、株式会社コシブレザービングを設立しました。

1965年には大阪市都市計画に基づいて津守工場から住之江区に移転すると同時に、木材の加工工業の発展に即応するため、社名を現在の越井木材工業株式会社へと変更しました。

さまざまな商品開発に邁進

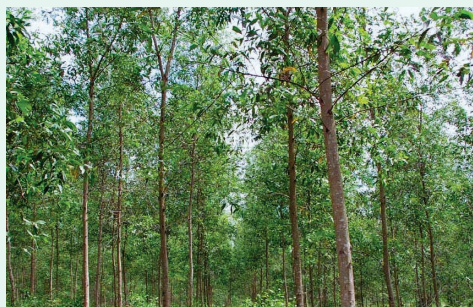
1970年▶ 1970年、西ドイツ・ボーデ社と「ヨーデルハウス」の技術提携を結び、翌1971年には日本で初めてログハウス（校倉工法）の大臣認定を受けました。

1977年、アメリカ・シカゴのMET-L-WOOD社と技術提携し、木材と異種材料の接着技術を用いて、コンテナ用のドアの製造販売を開始。この結果、他社が持たない独自の技術を保有することとなり、さらには、越井木材工業開発によるコンテナ用「Kドア」として1979年にパテントを取得するまでに至りました。

1992年には、城島後楽園ゆうえんち（現・城島高原パーク）の日本初となる木製コースター「ジュピター」の建設に参加しました。2021年に越井木材工業がアメリカの雑誌「Newsweek」に掲載された際、この木製コースターも同社の実績として写真付きで紹介されました。木製コースター以降、越井木材工業は大型物件の建設にも挑戦しています。

持続可能なモデルへの取り組み

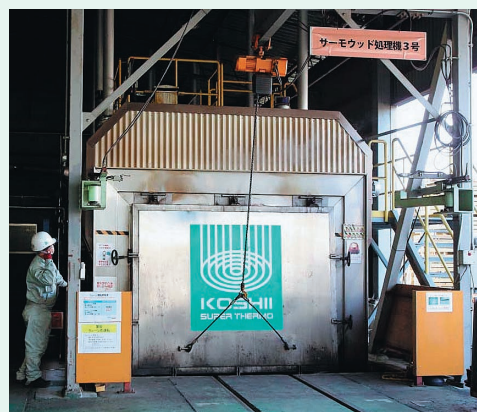
2000年▶ 2000年、マレーシアにて早生樹アカシア・ハイブリッドの試験植林を開始しました。その背景には、越井木材工業の木に対する思いがありました。



アカシアハイブリッド植林地

戦後、日本は復興のために東南アジアの樹木を多く伐採し利用してきました。東南アジアの樹木は天然林が多く、一度伐採すると成長して再び伐採できるまでに100年以上の年月を要すると言われていました。日本の高度成長には、これら森林資源が必要不可欠でした。同社はこの時お世話になった東南アジアへの恩返しの意味を込め、植林事業を開始しました。

2006年には水蒸気式熱処理木材『コシイ・スーパーサーモ』の製造販売を開始。フィンランド発祥のサーモウッド技術を、日本の樹種でも使えるように国産材に合わせて改良した『コシイ・スーパーサーモ』は、木材を高温の水蒸気で熱処理することによって耐朽性・寸法安定性を向上させた木材製品で、ルーバーなどの外装材や軒天、ウッドデッキなど、特に屋外への木材利用に最適な造りになっています。また、サーモウッドは水蒸気と熱のみで処理するため、薬品を全く使用しておらず、室内外問わず利用できる「環境に優しい材料」として注目されました。



サーモウッド処理機

いま、いたるところで目にするようになったSDGs（持続可能な開発目標=Sustainable Development Goals : SDGs）。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年までの16年間で達成する国際目標であり、「17の世界目標、169の達成基準、232の指標」から構成されています。同社は17すべての目標達成を目指し、付加価値の高い木材利用を通じた地域貢献と環境保全で次の100年へと歩みを進めています。

KOSHII SDGs
KOSHII WOODS SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

越井木材工業 株式会社

本社所在地：大阪府大阪市住之江区平林北1-2-158

従業員数：234名 資本金：3億円

事業内容：木材の防腐防蟻・防虫処理、木材の防火処理、木材の寸法安定処理
木材の熱処理（サーモウッド）、木製サッシの製造・販売など